国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

第四十一

共五十四局

渡利邑
松浦氏

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　ガラス使用

出給へ御所さ海のいやなつし給ふそあまより
おりはみるやすへ貴人なくやせみし給へ御花は
ほのかふひら金にしほくおしきおとのもひなり
所あうひとなくまゐすりはるゝまし給ふ
如屋なとも笑しらる色にけるそをこ海の色こそ
やうすて給ほくうれしさもあらためてこ心さ
海を色まるなく意中無給ふことて御うくまを
けらるゝ給ふひ尺きれなくみさくまつるをなく所
給まくなれほうまつるとしらるまのやうに所
ひとくめてなとをあらさらしかやはみうか
多ぬやうにおりしたりほくるんをとなくあられ

さひし給ひとつゝ御手に敵てをいやなるそうまと
てすしめてよろれほとの井なとまをあまりれと
何まことをおましのあらはひ気さげほくあらるを
世ぬふつれくなるまくにいましへの物語なとし
ぬふおりくもあり聞こりなれ所ひじ里山のつう
里なりおくにほをてもさしとありまつまじうる
けうことにほをほく中しろのうら絶しうおな
しこれけ(はふ)きのとおくみそのしなとをおりし出
給になぐてこそふれまてもスまのやうにふしくら
三天事にほ所てもさやうなるしをみしをわ無ん
なにましまとらうくしうおそせし所むまへなり

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

もこすゑおりしう震わくまるまの所かくみの
こう梅まうくひもの花やのうしなれいくれを
さら出くほらん事
うゑさみしむれあるしもなき宿にしられる
まてきぬ新鶯とうそふ天ありりせ浮ふ意深く成
なくまくまれまへのあるまさ海いましへまかそらぬ
鉢うて浮ふかくまをうらはとしつむなく何まし
れほきてもむひいくうおなさる連を大かくこれ
世のおりの無うま雪のひと堂しさん山のすゑ申
うしうのゑいとくなりまさるものふやゝふ天なるとの
ひちらけまされそれさらもうらけきに家けく

のゑみかされ浮ふおりの花見ひと色ちりてやへ
さく花さくらあるますれさくりし様をひら前夜へ
鉢くれていろほ天なしとそすめ新をきをうくと
花むれひとらくわ天て多くをほくしう色と天ぬ
しうを時鉢ますれを白ひみちたるまわり交まろ
かさくらをさきにけりいりて久しくちらさし本
のめくるに下をそそくかくひら鉢の前すを風も
是喚ようしとうしこう思ひえくつまと思くのゑふ
うなのいとうつくしきにもうら思まれ浮ひぬれ
おふつりの軸りと見きん人よりそいくしこう
おりしうを結へつもうしなとこれ交うりつまをそも

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　　ガラス使用

みえ給ひこのかくつまなしいとおしけなりくれな
ゐのきぞみえ給ひたるなり海岸さうきのひ
とへいやあれまひいろまくろきなやうるしか
らひつさなりてをこゝ天ぬをぬ天すへしなを
けらなとうくひきの事なとをうふあふひとかく
そうはを気たりあおとをとるをぬていうふとりやは
名ようますまはけまとの給へを
中略 而をこゝ者よろ色れ此こしみくさぬめにふの
かさしよ名所人をそ給ひやをちうひてきこゆけ
まといやおしくくそ
源 おなうを思すてくしせなれとあふひを

なをやほこをかひ色まなとあとつまりをなりし
をなるぬけしきなりさこれをいとくなりめくら
し給ふよりあの此事なくさうくし天ふ十よ日
の月をなやりふ而いくさる雲のめつしき
に大ねの君にまへまさふひ給ふ花さちをなの月
新まいやをさやりふみ色給りなつもといりせな
ほりしきれをちよ給ふまる教をせるんとまる
給く程ゆるりに立いけるしら雲へけし天いとめ
やまをまておとろくしうふりくる面しうひそ
而やぬく風まとうろを喫まとりして室くらきむ
ちをうは宗をうへ教なとのろ出りらぬぬるをと

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

日をくれば空も日くらしのこゝ花やりなりはた
まへのかてしあの夕ちへを見給へけ
まそうひなりつけら
(係)つれくとまりなれくらひ夜深日をりことうさ
しきゝのこゝ思うなれ給のいやなりとひうふ
も夕殿はなくらやひくとまひのぬる事もあらぬ
まちはのこくらるれぬへつ
(係)夜ふをし給ふとこてもうるしきゝ時うやを給
給思ひなりけり七月七日をれぬはうしつまし
おなくはあうひなとしし給ふそつれくみなりの
くらしし給ふ星あひみうへもすしまゝ夜ぬうう

ひと所おきぬて給ふ戸をしあ前のへ給はお裁の
なりやきしけくわくとおくとよりとをりてみまゝ
さおきぞ出のて
七夕のあふせをしきれよ所うしこてわうまの庭
に居うなきうふ風の音小色さくなりひなり給く
しろしを給ふ事のいやなりて給ふさらしろ
は夜きうりし前なり今まで色はける月日よりた
ほをまとめきれそあしはらし給ふ所正日まし
うみしこの人をみなりもぬしてうのまん夜程な
とにふぞくやうせき愛給ふきいれよるれ所おし
まひはてうけ下りしまうゆねの君の扇は

中将 君あふ海渡をきこしもなれ物をけふをはなれ乃
まてとのふらしと書作者ことをとりて見給て
源 人こゝろまり事を末まなり由をと結て打なり
我なみたなりけりやうそうへのふ九月になりて九
日わたしあなひたる菊を作らんしこそ
りろとをにおもかねしきくの物露をひとつまた
をとまつる枯りな神な月をおなかたを時雨うり
なる沈いとくなりの浮て夕くれのうらのけしき
まを思もいしぬむかしてけふ雨つしのとく記とつま
こちおもしを宮井をまたる雨の作をさもうらやす
しるまもられ浮ふ

源 おなを宮城のうらふまなろし夏まにみしこぬ玉
れ行志ろねらなふ事しまに作者ても雨きれもの
み月日まうへて打りさ我又苔なといひて帯う
こをうやなく今めりしけなるよろちねとおく君
さらまうも殿上を給て雨のつまへおれなし程に
てふたまいやうつくしきさ雨やけをちの頭中ね
蔵人かねなとをみまてあをすりのをうへとを
よけにかやまくてこれうらけく天めてうし作天
作くりろ其まさのつま浮ふ思ふことなけなるとを
を見給まいましへあやしうるし日の事の打つまさを
うふおりし出らうへし

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用